

令和 8 年 10 月 27 日

青森県 宮下宗一郎 知事

津軽半島全頭駆除計画の白紙撤回申し入れ書

実践自然保護団体 （一財）日本熊森協会 本部兵庫県
設立 1997 年、会員数 2,2 万人 電話 0798-22-4190
会長 室谷悠子（弁護士） 青森県支部長 石戸谷 滋

青森県をはじめ東北地方で、令和 5 年と 7 年に山の実りが大凶作となり、大量のクマが餌を求めて山から集落どころか市街地にまで出て来て、過去に類を見ないほど人身事故が多発。クマも大量に捕殺されました。この後、集落に依存するクマも見受けられ、令和 8 年には青森市の中心部での緊急銃猟も発生するなど、知事のご心痛はいかばかりかとお察し申し上げます。

今秋の山の実りは並作とのことですが、この 3 年で一気に人とクマの距離が近づいてしまった問題を今後どう解決していくか、大きな課題が残されています。人身被害防止をめざし、集落のクマ防除体制や山と里の間の大幅な緩衝帯の再構築など、抜本的な政策が必要であるのと同時に、クマの棲む自然の山を保全することも必要です。クマ全頭駆除（定着 0）計画や絶滅の恐れがある下北地域の頭数低減計画は計画自体に問題があり、宮下知事の目の覚めるような手腕を期待します。

申し入れ

- ①津軽半島のクマ根絶計画の白紙撤回。
- ②絶滅の恐れのある地域個体群に指定されている下北半島のクマの推定生息数 20%にもわたる捕殺をやめる。（狩猟を禁止し、有害駆除は 5%までに）
- ③生息数の追求調査ではなく、クマと人を遠ざける被害防除・地元支援に予算を投入することで人身事故の事前抑制を目指す。こちらにこそ目標値を掲げ鋭意努力すべき。

青森県ツキノワグマ管理計画には、青森の山にクマがいることで人間が享受している恩恵についての記述が全くなく、知事の指導が必要です。

青森県も国に従い、令和のクマ大量出沒の原因を、クマの頭数の急増としています。クマは急激に増加などする動物ではありません。私たちは、山の実り大凶作年に地球温暖化によるナラ枯れや、シカ・イノシシ増加による餌不足などが加わり、クマが生存に関わる食料飢饉に襲われて一斉に山から餌を求めて出て来て誘引物入り箱罠に次々とかかったとみています。

環境問題は地域ごとに現状を把握する必要がある、青森県クマ検討会委員の専門家が県外の学者ばかりであることは問題です。検討会には青森の自然を調べ続けてきた地域の自然に詳しい方々や自然保護団体を入れるべきです。

クマの生息数は非常に大きな幅でしか推定できない今、詳細な適正生息数や頭数低減数を根拠なく提示すべきではありません。放獣体制を組み、クマに人里危険の学習機会も与えるべきです。